

論文審査の結果の要旨

2023年2月10日

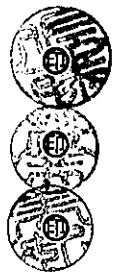
学位論文題目 悪性腫瘍患者における実臨床データを用いた薬物治療に
影響を与えるリスク因子に関する研究

学位申請者 梅原 健吾

審査委員 主査 佐藤 秀紀

副査 桜井 光一

副査 山下 美妃



申請者は、ペメトレキセドの長期投与が慢性的な血清クレアチニンの上昇に寄与しているかを明らかにする目的で血清クレアチニンを長期的に評価した。その結果、ペメトレキセドの累積投与量 7,000mg/body 以上と慢性的な血清クレアチニン上昇との関連を示した。さらに、ニボルマブを投与した患者における治療開始早期における効果予測因子の探索を行った。その結果、扁平上皮癌、年齢 ≥ 67 歳、ニボルマブ投与後の早期の好中球リンパ球比の低下の3つの効果予測因子に該当する数が多い患者ほど奏効率が高くなることを示した。さらに、ニボルマブを投与した患者における副腎皮質ステロイドの投与の有無及び併用時期の違いがニボルマブの有効性と免疫関連有害事象の発現に及ぼす影響について検討した。ニボルマブ投与後の副腎皮質ステロイドの投与は全生存期間に影響を与えないことが明らかとなり、免疫関連有害事象発現時は早期に副腎皮質ステロイドの投与による治療を行うことが可能であることを示した。

以上より、本研究で得られた知見は、日常診療で利用可能な検査値を用いている点で大きな価値があり、患者に対するより安全で効果的ながん化学療法を提供に繋がる重要な情報をもたらすものである。以上のことから、本論文は本学の博士論文として評価に値するものと認定した。